

法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
作成（所管課）	健康医療部健康推進室健康づくり課

○ 経営目標設定の考え方

ミッション

○精度の高い検診を実施
府民のがん検診受診率の向上や検診精度向上の観点から、専門性を活かして検診内容を充実しつつ、府民のがんによる死亡率の減少を目指す。

○公益財団法人として自立化
中小企業等に働きかけ、がん・特定健診を実施して受診率の向上と収益の向上につなげる。

■ 大阪府の施策

- ・ 健康づくりの推進

基本方針

1 精度の高い検診の実施

- ・ 利便性の高いがん検診を提供することにより受診者増を図る。
- ・ モデル検診機関として精密検査未受診者に対し個別通知による受診勧奨等を図る。
- ・ 検診機関が不足している市町村での集団検診の重点実施及び閑散期における検診の促進を図る。

2 自立化を目指した公益財団法人の経営

検診機関不足地域での効率的な車検診の実施と、がん検診と循環器健診を併せて行う総合健診を実施し、総合的で実践的な保健指導技法を開発することにより、受診者の拡大を図り、安定的な収益構造を作り上げる。

戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

① 市町村等の要望に応え検診車の効果的な稼働と精度の高い検診を実施する。

- ・ 検診車によるセット検診（乳がん・子宮がん）の実施回数
【97回(R4実績)→100回(R8)】
- ・ 市町村の個別検診の受託件数
【17市町村(R4実績)→19市町村(R8)】
- ・ 大腸がん（職域）検診の精検受診率
【75.0%(R4実績)→75.0%(R8)】

② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。

- ・ 総合健診の受診者数
【15,425人(R4実績)→15,200人(R8)】
- ・ 休日検診の受診者数
【1,283人(R4実績)→1,191人(R8)】
- ・ 総合健診の収益額
【352百万円(R4実績)→361百万円(R8)】
- ・ 施設におけるがん検診の収益額
【117百万円(R4実績)→131百万円(R8)】
- ・ がん予防検診事業会計 当期正味財産増減額
【△31百万円(R4実績)→0百万円(R8)】

○ 令和6年度の経営目標達成状況及び令和7年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 ウエイト	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値 〔見込値〕	R7 目標値	R7 ウエイト	中期経営計画 (R4～R8)		R7目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R7 目標値	最終年度 目標値	
② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。	総合健診の受診者数		人	35	17,420	16,200	[17,600]	17,800	35	15,200	15,200	・R6年度は目標値を大幅に上回り、R5年度並みの実績を確保できる見込みである。R7年度については、大阪市職員検診等の大規模団体検診を引き続き受託できたことなども勘案し、同水準以上を確保できるよう目標を設定する。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)												戦略目標達成のための活動事項
最重点とする理由、 経営上の位置付け	○当財団は、第3期中期経営計画(令和4年度～8年度)において、最重点とした「総合健診」は公益目的事業であるがん予防検診事業の事業収益のうち約40%を占めており、第3期中期経営目標の達成に与える影響が大きい。 ○また、当財団の設立目的は、府民の死亡原因の上位を占めるがんと循環器の予防を目指した事業を推進することであるが、「総合健診」は、まさにこの目的に沿った事業であり、その推進は府民の健康の保持・増進に寄与するものである。											
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	○受診者数の多い大規模団体の入札を適正価格で落れできるかが課題であるため、確実に落れできるよう対策を練る。また、他団体についても、公益目的事業として健診の質(精度)を確保しつつ、適正な価格で受託できるようにし、一つの大規模団体に頼らない収益構造に転換していく。 ○収益確保のため、受診枠の拡大、受診受付人数の工夫及び土曜検診の充実などを図り、収益の確保へ向けて最大の努力を続ける。 ○当財団では多くの団体の検診を受託し、団体の希望に応じた健診メニューを提供しているが、検診システムの更新による業務の効率化を図る必要がある。 ○医師、検査技師、看護師などの医療スタッフの確保を図り、これらが要因で受診者の受け入れができないようなことはないようにする。 ・大規模団体検診、特に大阪市職員検診を受託する。なお、大阪市職員検診については、R7～9の一括入札があり、落札することができた。 ・トップセールスをはじめ営業活動の強化による新たな団体の獲得を図る。 ・週3日(火・水・木)の午後に設定した受診枠にがん検診(胃・大腸・肺がん・乳・子宮がん)を誘導することで、午前の総合健診の枠を確保し、効果的な総合健診の実施を図る。 ・大阪市民等をターゲットとした効果的な情報提供や、受診後の手厚い結果説明や病院紹介、受診勧奨やWEB予約受付の拡大、クレジットカード支払い拡大など受診者の利便性や満足度の向上に取り組む。											
活動方針	○第3期中期経営計画において、 〔事業方針〕 大阪府のがん死亡率が高く全国で最低レベルにある中、大阪がん循環器病予防センター(以下「当センター」という。)は府民のがん検診受診率や精度管理の向上に寄与しがんの早期発見、早期治療につなげるため、これまでに培ってきた専門性を活かし、受診者ニーズに対応したサービスの充実を図るとともに、収支構造の改善に取り組む。											

法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
-----	------------------

Ⅱ. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 ウエイト	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値 〔見込値〕	R7 目標値	R7 ウエイト	中期経営計画 (R4～R8)		R7目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R7 目標値	最終年度 目標値		
① 市町村等の要望に応え検診車の効果的な稼働と精度の高い検診を実施する。	検診車によるセッ検診(乳がん・子宮がん)の実施回数		回	10	100	101	〔105〕	108	10	99	100	検診車の台数が限られている中、現状では検診日を増加させることは困難である。その中でも、R6年度見込値を上回る108回を目指す。	・市町村が検診計画を作成するときに、セッ検診が住民サービスにつながることを積極的にPRする。 ・午前中から子宮がん・乳がんのセッ検診を実施するよう働きかける。
	市町村の個別検診の受託件数		市町村	10	18	18	〔19〕	20	10	19	19	現在契約している検診機関があり委託先を変更追加してもらうことは非常に困難であるが、中期経営計画の目標値を上回る20団体の確保を目指す。	・市町村に対し、機会をとらえ個別検診受託の積極的な働きかけを行う。
	大腸がん(職域)検診の精検受診率(精検受診者数/要精検者数)		%	10	75.0	75.0	〔75.0〕	75.0	10	75.0	75.0	精密検診による早期発見は重要であり、受診率は、国が定める許容値の70%を上回る目標値である75.0%を目標としており、高水準での維持を目標とする。	・当センター以外での受診状況を把握し、未受診者への受診勧奨を継続して行い、受診率を向上させる。
② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。	休日検診の受診者数		人	10	1,087	1,150	〔1,150〕	1,175	10	1,150	1,191	R6年度見込値に毎回1名(年間実施回数24回)以上の上乗せを目指し、1,175人の目標値を設定する。	・府内自治体に対して、女性のための土曜検診(子宮がん・乳がん検診、その他オプション検査)についてのお知らせ文書を出し、住民周知を依頼する。 ・当センターHP上でのPRや電話による個別の申込受付の際には、女性検診については土曜日への案内や誘導を積極的に行うよう取り組む。

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。	総合健診の収益額		百万円	10	411	395	〔432〕	441	10	357	361	○R6年度は目標値を大幅に上回る見込みであり、R7年度も継続して大規模団体検診(大阪市職員検診)を落れてきたことなどから、R6年度見込値よりさらに上積み目標値を設定する。	・WEB予約受付の拡大による受診者の利便性向上や、人間ドック健診等収益率の高い総合健診(特定保健指導受診勧奨等)の受診者をオンライン・市民公開セミナーの提供など効果的な広報で増やし、収益増につなげる。
	施設におけるがん検診の収益額		百万円	5	118	124	×〔121〕	128	5	130	131	○クレジット支払い導入の利便性向上で、追加のがん単独検診やオプション検診の件数を伸ばす努力をすることで、R6見込値を上回る数値を目指す。	・クレジット支払いの拡大などの利便性向上で、がん単独検診やオプション検診の件数を伸ばす努力をする。 ・大阪市の住民検診をターゲットに効果的な宣伝を行い、胃・大腸・乳・子宮及び肺がん検診受診者の確保を図り収益の安定につなげる。
	がん予防検診事業会計 当期正味財産増減額		百万円	10	△ 3	△ 35	〔△9〕	1	10	0	0	○WEB予約受付やクレジット支払の拡大など受診者の利便性の向上などに取り組み、総合健診、施設がん検診、車検診の収益増を図り、中期経営計画のR7目標値クリアを目指す。	・受診枠の拡大や受診受付人数を工夫するとともに、土曜検診の充実などを図り、安全安心の確保とともに、収益の確保へ向けて最大の努力を図り、経営の改善につなげる。 ・収益確保のための取組みとして、総合健診受診者数の増、休日検診の実施、オプション検査の拡大、午後検診者数の拡大、車検診(セッ検診)の効率的運営を図る。

- 【凡例】
- ・☆はR7年度からの新規項目
 - ・×は目標値未達成
 - ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
 - ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
 - ・() 内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

CS調査の実施概要

○令和6年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
大阪がん循環器病予防センターにおける車検診の満足度	検診会場で調査票を配布し、受診者が自書のうえ回収箱に投かん	・車検診受診者	596人	令和6年10月1日～10月18日

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
結果の概要 受診者の年齢構成は前回調査(令和4年度)では60歳代・70歳代と40歳代・50歳代がほぼ同じ割合であったが、今回の調査では60歳代・70歳代の高齢層が7割を占めていた。令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、高齢層の受診控えが解消されたことによると思われる。 また、性別では男性の受診者の比率が増加しているが、依然として女性の比率が高い状況は変わっていない。 「検診スタッフの言動・態度」以降、受診者の方の評価は満足など好意的な評価が、過去同様に高い水準を維持している。 今後も高水準な満足度を維持するため、受診者の方のご意見などの確な対応をすることで、より一層の改革・改善を実施していく。 ○年齢 70歳代、60歳代、50歳代の順に多く、全体の89.6%を占める ○性別 女性が67.0%を占める 令和4年度より男性の比率が増加した ○受診した理由〔複数回答〕 「毎年受診している」が最多で、全体の50.3%を占める ○健診(検診)スタッフの言動・態度 「満足」は86.2%、「ほぼ満足」5.7%で併せて91.9%を占め、毎回高い評価となっている。 ○次回も当センターを受診したいと思うか 88.8%の受診者が「次回も当センターを受診したい」と回答	(結果を踏まえ実施した取組) ・アンケート結果を職員に周知し、各所属において更なる改善点を協議し、改善できるものについては、直ちに対応する。 (今後実施予定の取組) 個別に記述された意見等を分析し、改善点に結び付けていくとともに、引き続き満足度を高めるよう努力する。

○令和7年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
大阪がん循環器病予防センターにおける施設検診の満足度	受付で調査票を配布し、受診者が自書のうえ回収箱に投かん。	・施設検診受診者	500人	令和7年10月(予定)

■ 目標値未達成の要因について

様式4

法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
-----	------------------

[1]

成果測定指標	単位	R6年度目標値	R6年度実績値	目標値との差
施設におけるがん検診の収益額	百万円	124	121	△ 3

未達成の要因				要因分析(要因と考える根拠)				要因分析を踏まえた今後の対応			
①	施設がん検診数は増えたが、平均単価が当初見込みに届かなかったこと			がん単独検診やオプション検診等検査件数は伸びたが、低単価の大腸がん検診が増加分の半数以上を占めていたことにより、平均単価が伸び悩み、当初見込みを下回ったため、収益が目標に達しなかった。 当初目標件数 38,680件 施設平均単価3,219円 見込件数 40,630件 施設平均単価2,993円				・大阪市の住民検診をターゲットに受診勧奨やチラシ配架などの宣伝を行い、胃・大腸・乳・子宮及び肺がん検診受診者の確保を図る。 ・受付や問診時の複数受診の働きかけや誘導を積極的に行う。 ・大腸がん検診は、低単価ではあるが罹患数1位であるため、がん予防キャンペーン講演会等、がん予防啓発事業の取組みを通じ、がん検診の重要性を浸透させていくことで、検診受診者数の増加を図る。			
	関連項目名	平均単価	単位	円	R6当初想定値	3,219	R6実績値	2,993	差	△ 226	

■ 令和6年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

〔1〕

	単位	R6年度の 実績値〔見込値〕	R7年度の 目標値
大腸がん(職域)検診の 精検受診率 (精検受診者数/要精検 者数)	%	[75.0]	75.0

マイナス (現状維持) 目標の考え方	精密検診による早期発見は重要であり、受診率は、国が定める許容値の70%を上回る75.0%を目標としており、高水準での維持を目標とする。
--------------------------	---

〔2〕

成果測定指標	単位	R6年度の 実績値〔見込値〕	R7年度の 目標値

マイナス (現状維持) 目標の考え方	
--------------------------	--